

# よろこび

聖徒のための情報誌

### 今月号の内容

- 慰霊と復興への道(1面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道
- よろこび佛教語解説(2面)
- 法華経のお話⑥(3面)
- よろこび法話(4面)

平成23年(2011年)12月1日(木)

## 12月号

発行所  
〒873-0002  
大分県杵築市南杵築1539番地  
妙経寺内

### 日蓮宗霊断師会

会長 新聞 智雄  
日蓮宗霊断師会事務局  
電話 0978-62-3570  
FAX 0978-62-3571  
編集人 松本 恵昌  
購読料 1部 105円  
毎月1回1日発行  
日蓮宗霊断師会ホームページ  
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp  
よろこび投稿メール  
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

# 慰霊と復興への道



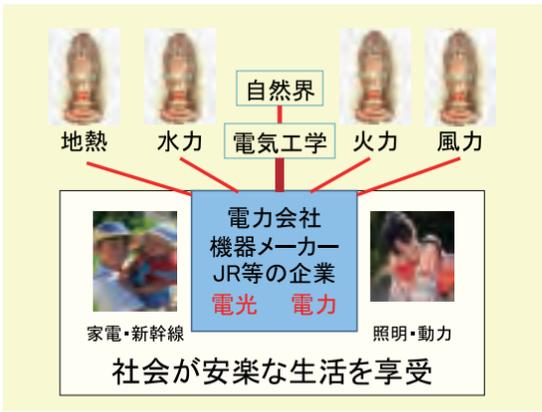
岩手県山田町善慶寺聖徒団団長  
本部長理事・総合研究所副所長  
別格本山妙顯寺 加歴四十八世

## 三浦 恵 伸

3・11東日本大震災にあたり、賜りましたご支援に対し、篤くお礼を申し上げます。

突如、命を奪われた二万人余の方々は、「自分達の方も生きて欲しい」と訴えておられます。生き延びた私たちが、どう生きればその思いに答えられるのか...を、考えます。

さて、当山に電気が通ったのは、四月十六日の午後四時頃でした。寺族で拍手をし、電力マンに感謝した事です。



格差社会で閉め出された側が、がまんの限界に達しています。閉め出した側は人口の一パーセントと言われ、自分達さえ良ければいいというエゴが心を占めているの

です。二十世紀は電化生活の普及期で、電光の照明で明るい社会を、電力による動力源で安楽な生活を享受しています。その電化社会のシステムを略図にしてみました、上図のようになります。

電気関連会社を中心になって支えています。私たち消費者は電気料金がチケット代で、電化時代を謳歌しているのです。

簡単・早い・安い・安全・便利がキーワードでしたが、現在は原子力発電所の放射能汚染や、二酸化炭素排出による地球温暖化対策など難問山積です。かと言って、今更電気の無い生活はあり得ません。

都市は不夜城となつていている事を宇宙衛星からの映像は捉えています。大変高度な文明社会になった筈ですが、二十一世紀に入った今、世界中でデモが起きています。

「此の三大秘法は二千余年の当初地涌千界の正統として、日蓮に教主大覚世尊より口決せし相承なり。今日蓮が所行は靈山の稟承に芥爾計りの相違なき、色も替

はらぬ壽量品の事の三大事なり」(三大秘法稟承事)

人に佛教の弁えは無くとも、日蓮大聖人のお題目を信じて唱えれば、即、壽量御本佛と御心が通い、大慈大悲に包まれて安心して成長し、真の大人となつてお互いが住み良い社会を築くようになる、日蓮佛教の、

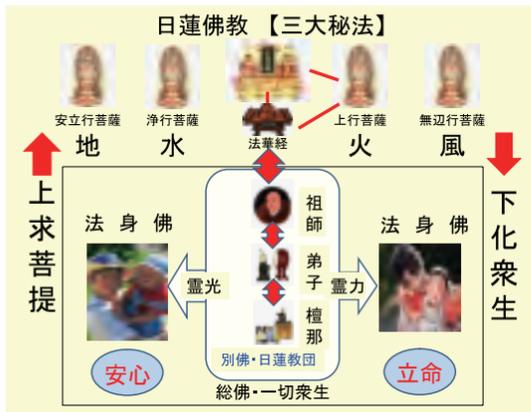
「如来秘密 神通之力」と説き、天台大師は、「感応道交」とお諭し

それは右図のように電化のシステムと同じなのです。

自然界にひそかに在る電気を取り出して人間の生活に用いているように、靈界にひそかに在る生命の御親との交流を深め絆を強くして、人類の生命活動を正しい軌道に乗せ、この地上に本来の浄土相を顕現させる光と力のシステムであり、それは電化生活と言えます。

その中心となつてこのシステムを支えていくのは、日蓮宗の僧俗であり、更に、御義口伝において、「総じては如来とは一切衆生なり、別しては日蓮の弟子檀那なり、されば無作の三身とは末法の法華経の行者なり(壽量品二十七箇の大事」と、一人でする信仰ではなく、我等僧俗のその異体同心相こそが、「実佛」であると祖師はお示しです。電気関連会社の企業努力に負けない、日蓮教団の結束と精進が今まさに求められています。

年の瀬にあたり、今一度宗祖日蓮大聖人が意図されたお題目信仰の有り様に思いを馳せ、この道に生きるよろこびを、多くの人々と分かち合える新年を迎えたいものです。



**津軽宇田山 閻法寺**

12月11日 午前11時より  
「大黒天神大祭」  
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」

〒030-1403  
青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
TEL 0174-25-2712

住職 工藤 堯幸  
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

**日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団**

12月11日(日)午前11時  
釈尊成道会・星祭祈願祭  
毎月1日午前10時「盛運祈願会」

妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄

〒071-1423  
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3  
TEL 0166(82)2714  
FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

**美濃乃國 常唱寺 聖徒団**

〒501-3734  
岐阜県美濃市千畝町2738-2  
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙顯寺  
日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌貫首著  
「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」  
国書刊行会

CD「感謝百万遍陀羅尼」  
「ないないブルース」

好評 発売中!

〒327-0843  
栃木県佐野市堀米町264  
TEL 0283-22-1524  
FAX 0283-22-4194  
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会会長  
感通寺聖徒団団長  
新聞 智雄

〒162-0044  
東京都新宿区喜久井町39  
TEL 03-3209-8782  
FAX 03-3208-7966

# 小泉晃淳上人本葬儀並びに 小泉輝泰上人法燈継承式厳修

六月二十七日、日蓮宗霊断師会理事を長年勤められた小泉晃淳(顕本寺第五十二世・観立院日淳)上人の本葬儀、並びに後継となる当会総合研究所教学研究部長である小泉輝泰上人の第五十三世法燈継承式が、千葉県南房総市・顕本寺において営まれた。晃淳上人は当会への尽力篤く、理事会では副議長として采配を振るい、また本部講師として全国支部を巡り霊断法と教学の研鑽に尽くし、聖徒対象の一日伝道や清道衆講習会では「とても易しいお話で、大変感動しました」との評判を得る名物講師であった。数年前より体の不調を知りながらも法務を続けていたが、本年五月八日、惜しくも世寿六十八歳にて遷化された。翌九日には仮通夜、十日には密葬を近親にて営み、日を改め六月二十七日午後一時半より、霊蹟本山鏡忍寺貫首・原日透親下を大導師に迎え、地元青年僧出仕による雅楽の荘厳な響きの中、厳肅なる本葬儀が営まれた。当日は梅雨の最中ながらも晴天に恵まれ、全国各地より僧俗官民併せ三百名以上



新住職・小泉輝泰上人

上の弔問者が参集し、故人の布教活動の幅広さを物語っていた。

本葬に先立ち、同日午前十時より小泉輝泰上人の第五十三世法燈継承式が行われ、師父である晃淳上人が護り続けた顕本寺の法燈が受け継がれ、住職の象徴である弘子が新任職の手に渡された。続く本葬儀では大導師よりの「嘆読文」が奉読され、山内丹精の数々、宗門での様々な活躍、殊には霊断師会での理事や講師として精力的な活動の歴史が披露され、宗外でも民生委員や保護司を歴任し、その功績により平成二十年に法務大臣表彰を受け、常に法華経を説いて正道に歩まれたことが称えられた。当会より全国霊断師を代表して、新聞智雄会長による弔辞が御宝前にて奉奠され、「上人の人生は是非非のはつきりした、寸分の狂い無き人生でありました。日蓮大聖人の直弟子たる本分が尽くされた、揺るぎ無い人生を生きて、常に当会の発展に力を尽くして下さった上人を頼りにしておりましたので、突然の訃報に唯々狼狽えるのみでした。上人と



本葬儀の様

は荒行堂入行以来のお付き合いで、私が百日間の木鉦役を仰せつかり、厳しい行に次々行僧が倒れていく中で、最後に隣で読経を助けてくれたのが上人でした。お蔭で百日一日も休むことなく木番を務めることが出来た事は、上人のお蔭です。この事は私の密かな自慢でありました」と長年の盟友を失った悲しみと、懐かしき思い出を語った。そして「本会

は今後も佛国土顕現に邁進して参ります。今後共本会発展の為に上人のお力をお貸し下さい」との決意を示し言葉をつなげた。参列者は在りし日の晃淳上人の姿を思い浮かべ、皆涙でこの弔辞に聞き入っていた。本葬後は別所にてお斎と併せた追悼会が行われ、更に多くの寺院方も集い、晃淳上人の遺影の前に、皆で懐かしい思い出を語り合う式となった。

## 第七回 よろこび 佛教語解説



総合研究所・  
霊研主任  
新聞 信應

### 『布施波羅蜜』

寒い季節になりました。夏には青々と茂っていた葉も落ち、今は寒さに耐えながら、春に沢山の華を咲かせる修行中なのでしょう。

今月は六波羅蜜の一つ『布施波羅蜜』についてのお話です。「ふせはらみつ」と読み、同義語で『檀那波羅蜜、檀波羅蜜』とも言います。「与える・ほどこす」という意味ですが、この布施の基本には「財施」と「法施」の二つの意があります。まず財施とは、檀信徒が寺院や僧に対して物資(財物)をほどこし徳を積む行い、いわゆる一般的に「お布施」と呼ばれるものです。この行いは即ち、法施の僧を養うこととなります。そして財施を受けた僧侶は、衆生(檀信徒)に対して法(教えを伝え、説き、いのり、行いをさせる)をほどこして、互いに修行の成就を目指すのです。

日蓮大聖人も数多くの檀那から



財施を受け、お一人お一人に「法華経の行者(お題目を伝え弘める者)の身を養うことは、ご本佛を供養することと同様に大尊厳な行いである」とのお返事を送られています。そしてその恩に報いんと願い、生涯お題目という最上の法をほどこし続けられたのです。檀那と僧侶、財施と法施、この二つはまさに車の両輪のようではなければならないのです。

皆様は財施を、僧侶は法施を互いの修行とし、日々の生活を送るうちに、やがてそれは、  
眼 施—優しい眼差しで人に接する  
和顔施—柔和な顔、明るい顔で人に接する

言辭施—優しい言葉をかける  
身 施—奉仕など身を以て行う  
心 施—心の底から人を思いやる  
等の布施行として自然と身に備わり、自身の信仰がより深まってくるのです。

さあ今日から早速『布施波羅蜜』の行を実践していきましょう。  
イラスト 小川けんいち

## 第八回 日蓮大聖人の歩まれた道

ご幼少期(その二)



総合研究所  
教学研究部長  
小泉 輝泰

房州小湊の地には、今でも「御乳(ごち)さん」と称される家があります。これは乳母雪女の生家であった滝口三郎左衛門ゆかりの家であると云われ、この家系では代々女の子が生まれると「雪」の字をその名に冠す習わしがあるそうです。幼き善日磨を育んだ房州の歴史を物語る、大変興味深い伝承ではないでしょうか。

乳母雪女の養育は、まるで我が子を思うがごとく大変熱心であり、その甲斐あってか善日磨の成育ぶりに周囲も目を見張るほどでありました。説によれば、善日磨は二、三歳にして神佛を篤く敬い、五歳の頃には既にお自我偈を誦んずることができたとのこと。この当時は当然ながら数え年ですので、今で言うところのわずかに四歳、やっと幼稚園に上がるくらいのお年でしょうか。日蓮さまと比べるのも失礼ながら、私のところにも同じ年頃の息子がおりまして、私が朝のお勤めでお経を読むのを端で聞きながら、門前の小僧よろしく何やら自分も「モニヨモニヨ」と言っておりませんが、残念ながらこちらはまったくお経の体をなしていません。方や善日磨は、やがて八歳になると法華経一部を覚え、難解な佛書を次々に読み解いていったと言われているので、その知識の高さには本当に驚かばかりです。

ご幼少期の素養の高さは、学問に限ったことではありませんでした。千葉県下総(市川市中山)の大本山中

山法華経寺には、善日磨十一歳の時の御作と伝えらるる戯画二葉が、宝物として現在も確認されています。そのひとつは軍装のたくましい馬がいなく姿を、ひとつは鎧を身につけた武者たちの戦う姿を描いたもので、いずれも鎌倉武士たちの生き生きとした姿が、見事な技量で描写されています。わずか十歳というお年でこれだけの才を発揮されていることにも驚きですが、何よりも不思議なのが、当時情報量の乏しい鎌倉時代にあつて、漁村に住む童子がいかにしてこれらのモチーフを目にしたのでしょうか。あるいは乳母より軍記物語を耳にし、その合戦風景を思い描き・・・というにはあまりに生々しい両幅の絵を拝見するにつけ、やはりご出生の秘密をいろいろと想像してしまいます。



こうして善日磨を立派にお育てした雪女でありましたが、善日磨十二歳の時に病床に伏し、ついには帰らぬ人となってしまいました。善日磨は雪女の死を痛く悲しみ、ご自身をここまですべてくれた大恩を思い、墓前に一本の桜の苗を植えて「乳母桜」と名付けられました。また追善供養の為にご自身の勉強姿をお手彫りされ、西蓮寺薬師如来の御宝前に奉安されたのです。これもまた幼童の技とは思えぬ見事な彫り物で、雪女の墓所とされる五輪の供養塔、乳母桜、そしてこのご幼像も今なお現存し、寺宝として大切に奉安されています。幼き頃より佛法を深く敬い、そして大恩ある者にはその恩に報いたいと心より願う、そんな日蓮さまの原点を知ることのできる心温まるエピソードです。  
イラスト 小川けんいち

# 法華経のお話⑥



総合研究所主任  
塩入 幹丈

## 無量義経の段 その五

「一時佛住。王舎城。耆闍崛山中」

王舎城(またの名を王救城)の中心部より東北の方に変わった形をした小高い山があります。山頂(峰)がまるでハゲワシの頭部のような形をしたその山こそがギッジャ・クータこと耆闍崛山です。

ギッジャとはハゲワシのこと。故に単に鷲峰山や鷲頭山という呼び方もありますが、これでは単に変わった形の山というだけのこと。

やはり鷲山という名前こそ、この神秘的なるお山にふさわしい名前でしょう。

その名のごとく、ここには沢山のハゲワシや諸々の霊や魔が集まる山、ゆえに名付けて鷲山というわけです。

前回の斑足王の羅刹たちもこの山の霊の一種。さらに鷲山の魔物についてはこんなお話もあります…



### ①最強の妖怪は誰だ

中国四大奇書中、最大のメジャー作品といえば西遊記。お年寄からお子さんまで最も幅広く親しまれてきた作品でしょう。

唐の時代の実在の高僧(決して尼僧にあらず)玄奘三蔵法師を主人公に、彼を守る四人の妖怪、猿の齊天大聖孫悟空・豚の天蓬元帥猪八戒・河童(ホントはよく分らない水の妖怪)の捲簾大将沙悟浄・いつもは馬に化けている龍の玉龍の活躍を描く一大長編です。

彼ら四人と、三蔵を食べようとして狙う妖怪たちとの丁丁発止の攻防戦が物語の主軸となるわけで、実に様々な妖怪たちが登場します。

その中でも有名なものは、不思議なヒョウタンを駆使する金角・銀角兄弟と、元祖バツファローマンこと牛魔王の三人でしょう。絵本等のダイジェスト版でも必ずチョイスされるメンバーです。

そんなメジャー組の影に隠れたマインナーな存在でありながら、実は西遊記全妖怪中最強だと断定できる妖怪を、皆さんはご存知でしょうか? その妖怪こそ西遊記第七十四回から七十七回に登場する鳥の妖怪・三大王なのです。

### ②獅駝洞の三妖怪

彼は獅駝洞をアジトにし青獅子の妖怪・一大王、白象の妖怪・二大王とトリオを組む故に三大王と名乗る訳ですが、仲間が青獅子と白象と言っていると来られる方もおられるかもしれません。

青獅子といえば智慧の文殊菩薩の乗り物、白象は慈悲の普賢菩薩の乗り物。そう、この物語では、佛教を代表する二

大聖獣が各々の主人の元を脱走し、地上で悪さをしていることになつていくわけです。

こんな大物たちとトリオを組みながらも作中、最も大活躍しているのが彼、三大王なのです。智慧を巡らして悟空の作戦を見破り、さしの勝負でも悟空を圧倒します。

これにはとうとう悟空も打つ手がなくなつてしまいます…

### ③大重鎮のご出馬

敵妖怪の策略や猛攻に窮地に陥つた悟空たちのもとに、その妖怪と縁ある菩薩や佛教・道教の守護神が救援に赴くというのが、西遊記のいつものパターンです。

救援に駆け付けるのは最多登場の観音菩薩を筆頭に、弥勒菩薩、文殊菩薩、老子、毘沙門天の御子息の哪吒太子、暦でお馴染みの二十八宿、華嚴経の主人公善財童子、陀羅尼品の毘藍婆等々と錚々たるメンバー。しかし今回は異例中の異例な事態となります。

「獅駝洞の三妖怪…ならば敵は三大王!私が行かねばなるまい!」と、なんとお釈迦様おん自らご出陣されるのです。

こんなことは作品中ではヤンチャだった頃の悟空を封印するためお出ましになった以外は唯一のこと。しかもお釈迦様は本来、三蔵パーティの目的地(大雷音寺です)で待っているべき立場です。

その基本設定をも破るパターンに展開するわけですから、まさに三大王こそ、西遊記最強の敵役と言つて



いいわけです。

お釈迦様は悟空に説明します。嘗て恐ろしい力を持った凶鳥・大孔雀が世を乱していたのを私自ら手を降し調伏した。敗北し改心した凶鳥こそ今の孔雀明王である。そしてあの三大王こそは明王と同じく鳳凰の卵から生まれた大鵬金翅鷲。如来以外に倒せることはできないと…

### ④鷲山の守り神

釈迦三尊像よろしく(ちようど増上寺で戦後初の開帳ですね)文殊菩薩、普賢菩薩を従えて獅駝洞へ降臨されたお釈迦様は、一大王、二大王はそれぞれの主人にまかせ、三大王との一騎打ちに打つてみます。

さすがの三大王も、やはりお釈迦様には敵うはず無く、とうとう動きを封じられてしまいます。

しかしそれでも諦めることなく「兄弟たちよ、こいつらを倒して大雷音寺を「乗っ取るうぞ」とわめき続けます。倒され捕らえられた後、悪態をつくのは悟空以外では彼一人でしょう。

かくして獅駝洞一味は壊滅。青獅子と白象は主人のもとにつれ返され、残った大鵬はお釈迦様に引き取

られることとなりました。お釈迦様は仰います。

「私の住んでいる山は形が鷲の頭部のようである。大鵬ならば、その姿といい力といい、この山の守護神にふさわしいであろう」…

というわけで、このエピソード、

# ローカルニュース

## 『ハート感謝の集い』を開催!

平成二十三年十月二十三日(日)、名古屋市名東区のハート鍼灸接骨院にて『ハート感謝の集い』が開催され、同区本成寺・天野行淳聖徒団団長が法話に出講した。

この催しは、天野上人と伊藤真澄接骨院院長の地域貢献への願いと患者さん方への心のケアの一助となる活動をしようという共通の思いによって昨年から開催されている行事である。

午前九時より正午まで、患者さん・医療スタッフの手によって集められた品々によるバザーが行われた。この収益金はすべて東日本大震災被災地への義援金に充てられた。

午後二時より五十名の来場者が参集する中、天野上人による法話が行われた。

自身の信仰体験を通じたお話として、人は皆、何歳になっても、たとえ不自由な状況でも等しく大切な役割を担っている。皆が互いを尊いとの思いと、自分自身も大切な役割を頂いている責任を喜びに変えて生活していきましよう。皆が大切な役割を担う尊い人であるという思いが満ちてくれば必ず素敵な世の中が出来上がるはずで



すと言われた。来場者の中には涙を浮かべながら聞き入る人、メモを取りながら聞く方の姿が多く見られた。

続いて近隣のアロヒラニ・フラスタジオのメンバーによるフラダンスが披露された。会場は笑顔にあふれ、やがて患者・医療スタッフはじめ来場者も一緒に踊るほど盛り上がりを見せた。

さらに地元で活動しているコーラスグループ譜遊歌によるコーラスに心なごむ時が流れた。来場者は口々に、「元気を頂きました!」と語り会場を後にした。心温まる暖かな催しであった。

西遊記中破格の扱いの大鵬こそが、鷲山の霊鷲であったという縁起譚となるわけです。しかも鷲山と大鵬との意外な結びつきは、実はこの西遊記だけではないのです…

イラスト 小川けんいち

# よろこび法話

## あぶつぼう 現代によみがえる阿仏坊夫婦

岐阜県 妙法寺聖徒団団長 **三木 一乗**



日蓮大聖人が語られる「日蓮が弟子檀那」には、僧侶と檀信徒という分け隔てはありません。日常生活と信仰生活を別

のものと考えず、お題目と共に生きる一日、その日々の積み重ねを一生とする人々の総称なのです。そして、自分が生きていく時代の人々・社会全体に、様々な立場からお題目を伝え、弘めていく「法華経の行者」と同義なのです。

最大のお題目は「御首題」にあります。一番の楽しみは【出会】にあると夫婦は言います。ご住職の法話や気さくな世間話。お庫裡さんとの談笑。ある時など、夫婦と近隣の出身という奇遇に話しの花が咲き、予定滞在時間を忘れての談笑も間断。更には、ご住職やお庫裡さんが次のお寺をご紹介・ご連絡のうえ、当地まで送迎くださったことも数々。偶々

乗ったタクシーの運転手が日蓮宗のお檀家で、途中で料金メーターを止めて観光地巡りをしたことも一度ならず。泊った民宿が日蓮宗のお檀家で、翌朝のお勤めを一緒にしたこともあるなど、各地の「日蓮が弟子檀那」との【出会】、お題目による不思議なご縁・法悦に遇うからこそ、今後も《御首題行脚》を続けたいと思っています。

「法華経の行者の祈のかなはぬ事はあるべからず」 日蓮大聖人『祈祷鈔』

以来、毎日祈りを捧げ、体調管理にも心掛け、家業に励んでの足掛け十数年。毎年継続されたわけではなく、体調不良や経済的な理由などで中止した年もありましたが、「初一念」が途切れたことは一度も無いと夫婦は言います。

全国的「日蓮が弟子檀那」の皆さんは、正真正銘「法華経の行者」です。お題目を持ち・行い・護り・弘めるといふ想いを一つに、自身のお題目と共に生きる道を歩んでいきましょう。それが私たち「地涌の菩薩」としての使命であると、今日でも日蓮大聖人が語り続けられています。

「法華経の行者の祈のかなはぬ事はあるべからず」 日蓮大聖人『祈祷鈔』

●郵便振替口座 「口座記号番号」 00190-3-358732 「加入者名」 日蓮宗霊断師会総務局財務部 救援募金担当 光枝 妙珠

再拝記

「法華経の行者の祈のかなはぬ事はあるべからず」 日蓮大聖人『祈祷鈔』

乗ったタクシーの運転手が日蓮宗のお檀家で、途中で料金メーターを止めて観光地巡りをしたことも一度ならず。泊った民宿が日蓮宗のお檀家で、翌朝のお勤めを一緒にしたこともあるなど、各地の「日蓮が弟子檀那」との【出会】、お題目による不思議なご縁・法悦に遇うからこそ、今後も《御首題行脚》を続けたいと思っています。



**佛壇駒形屋**

〒070-0054 旭川市4条西5丁目2番3号  
TEL(0166)22-4643 FAX(0166)22-4672

代表取締役社長 駒形 貞洋

各種寺院用仏具取扱い・修復等もお任せ下さい  
仏壇・仏具・数珠・線香・ローソク各種  
お仏壇クリーニング・修復も行っております  
お気軽にお問合せ下さい  
全国発送承ります

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是真

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**がんばれ日本!**

正立寺 妙法寺番神聖徒団  
団長 新聞 信應

毎月1日 午前10時 盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404  
島根県雲南市三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

**(株)伊藤家石材**

〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目  
TEL(0166)51-5017 FAX(0166)54-3272

新規墓石建立・墓石のリフォーム・墓石の移転工事  
戒名刻字・各種墓石用品、取り扱っております。  
御見積もりは無料です。お気軽にご相談下さい。

**Flower**

〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目  
TEL 0166-51-5017 FAX 0166-51-5462

RE-K

イラスト 小川けんいち

### 俱生神月守・霊断法の二案内

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道の先はよく見え、地図もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となっているかもしれない。人は誰もそれに気づかず、「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩を前に愕然とする。◆私たちが日蓮宗聖徒団には九識霊断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮大聖人のお教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指し示し目的地へと導いてくださいます。◆人事万般なんでもご相談ください。◆また聖徒団には俱生神月守という不可思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となって護って下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最終の聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

**日蓮宗霊断師会 第47回全国結集身延大会 開催日程決定**

平成24年5月12日(土)・13日(日)

大会概要は改めてお知らせします。ご参加をお待ちしております。身延山でお会いしましょう。